

# いちかわ定点観測

古いアルバムに残る、ある日のまちの姿から記憶に新しいあの日の私たちが見えてくる

## 式場病院のバラ園

1936(昭和11)年に創設された精神科・神経科の専門病院、式場病院。国府台の緑豊かな丘の上にあるこの病院は、バラ園のある病院としても有名です。戦後間もなくにつくられたバラ園は、患者さんの散歩道として利用されたほか、初夏には華やかなガーデンパーティーが開かれて、盛装した紳士・淑女たちが集いました。現在も美しい花を咲かせる式場病院のバラ園。「市民の花・バラ」のルーツともなったその場所の昔と今の姿を紹介します。



**バラが珍しかった頃から栽培を始める**

「戦後間もない頃、バラはそれこそ『高嶺の花』でした。国内には株の数も少なく、野バラの根を採取してきて、それに外国産のバラを接ぎ木して株を増やしたものです」

バラ園ができた当時のことを懐かしそうに語るのは、式場きくよさん。初代院長の故・式場隆三郎さんとともに病院を支えた弟の故・倭文夫さんの妻で、同病院の初代薬局長も務めた方です。病院をあげてバラを大切に育てたことで、バラ園は次第に有名になり、同時にバラを愛する市民も増えていきました。1952(昭和27)年には、バラの愛好家が集まって「市川バラ会」を結成。市川駅北口のロータリーをはじめ、市内各地にバラの植樹が盛んに行われました。

普段はのどかなバラ園でしたが、花が咲きそろう春と秋には、たくさんの人を招待して、ガーデンパーティーが毎年開かれました。

「パーティーは、それは華やかでした。有名女優さんや地元の名士、患者さんのご家族など、さまざまな人がいらっしやう。楽しい思い出です」ときくよさんは語ります。

**ローズ・カーニバルの開催。そして、バラ園の今**

式場病院のバラ園が最もにぎやか



バラ園で開かれた、市川ライオンズクラブ主催のパーティーの様子。当時のバラ園は地元名士の社交の場でもあった。(昭和45年頃)



病院のスタッフにより丹誠込めて管理が行われている現在のバラ園（現在、バラ園は一般開放されていません）。



昭和32年のローズ・カーニバルの様。白いドレスを着た「ミス・ローズ」が馬車に分乗し、市川市役所～市内の福祉施設～市川駅前～式場病院というコースでパレードをした。



当時の浮谷竹次郎市長の名前で出された、ローズ・カーニバルの招待状。式場家にも縁のある山下清画伯の絵が使われている。



な雰囲気に包まれたのは、1957（昭和32）年の5月18日・19日のこと。この両日、市川バラ会の創立5周年を記念して、市内で「ローズ・カーニバル」が開催され、馬車やオープンカーを連ねたパレードやバラのコンテストなどが行われました。会場の一つとなった式場病院のバラ園は2日間にわたって一般開放され、多数の来園者を集めました。また、このとき、市川をバラにあふれたまち（ローズ・シティ）にすることをめざした、「ローズ・シチー宣言」も当時の浮谷竹次郎市長によって行われています。

現在の式場病院のバラ園は、往時の5分の1程度に縮小されましたが、それでもヨーロッパ式の優雅な庭園を中心に1000品種・5000株が丹誠込めて育てられています。90歳を超えてお元気な式場きくよさんは、たくさんのお出の詰まったこのバラ園を散策するのが何よりの楽しみです。

